

トヨタ純正

バックブザー

取付要領書

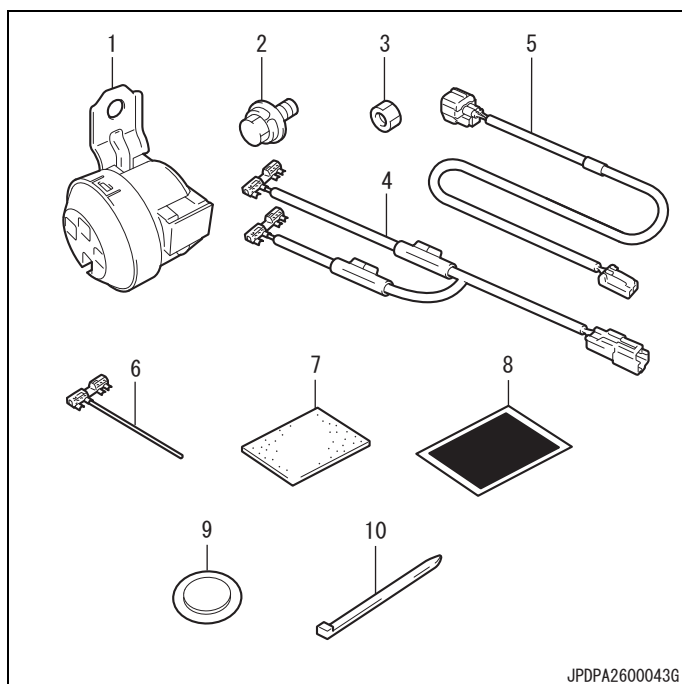
このたびは、トヨタ純正「バックブザー」をお買いあげいただきありがとうございました。
本書は、「バックブザー」の取り付け要領について記載してあります。
取り付け前に必ずお読みいただき、正しい取り付けをしてください。

品番

品 番
086A2-52010

※ 夜間消音機構付き

構成部品



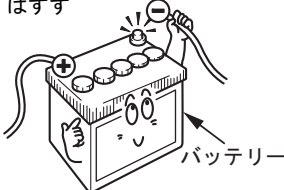
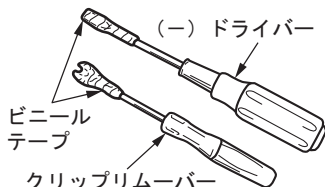
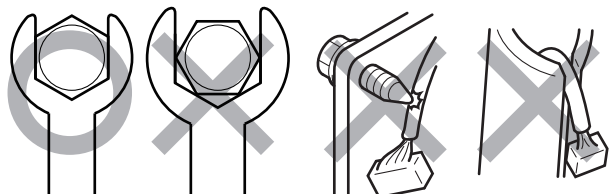
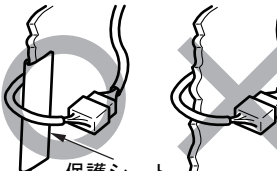
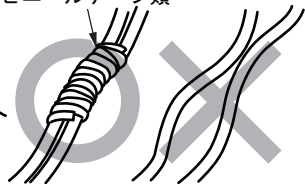
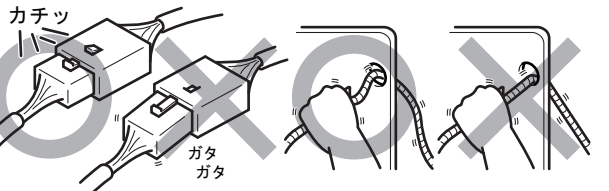
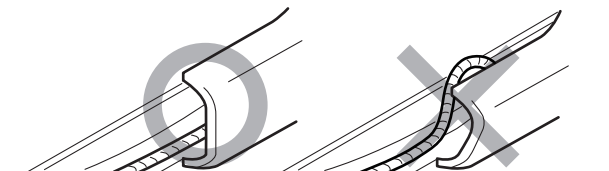
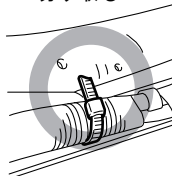
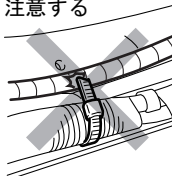
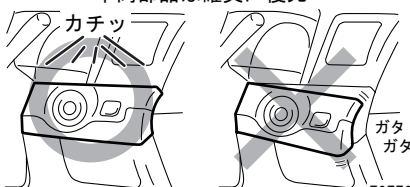
No	品 名	個数
1	本体	1
2	ボルト (M8 × ℓ 20)	1
3	ナット (M8)	1
4	ワイヤーハーネス No. 1	1
5	ワイヤーハーネス No. 2	1
6	サブハーネス	1
7	パッキン	12
8	保護シート	5
9	ブチルテープ	1
10	バンドクランプ	5

用語の定義

△警告	記載事項を守らないと生命にかかわるような重大な傷害、事故につながるおそれがあることを表します。
△注意	記載事項を守らないと、傷害、事故につながるおそれがあることを表します。車両や製品の故障、破損を防ぐために守っていただきたいことを表します。
👉 アドバイス	作業をスピーディおよび容易にするための補足説明を表します。
「前・後・左・右」	車両運転状態（運転者が車両前方を見た状態）での向きを表します。

取り付け上の注意事項

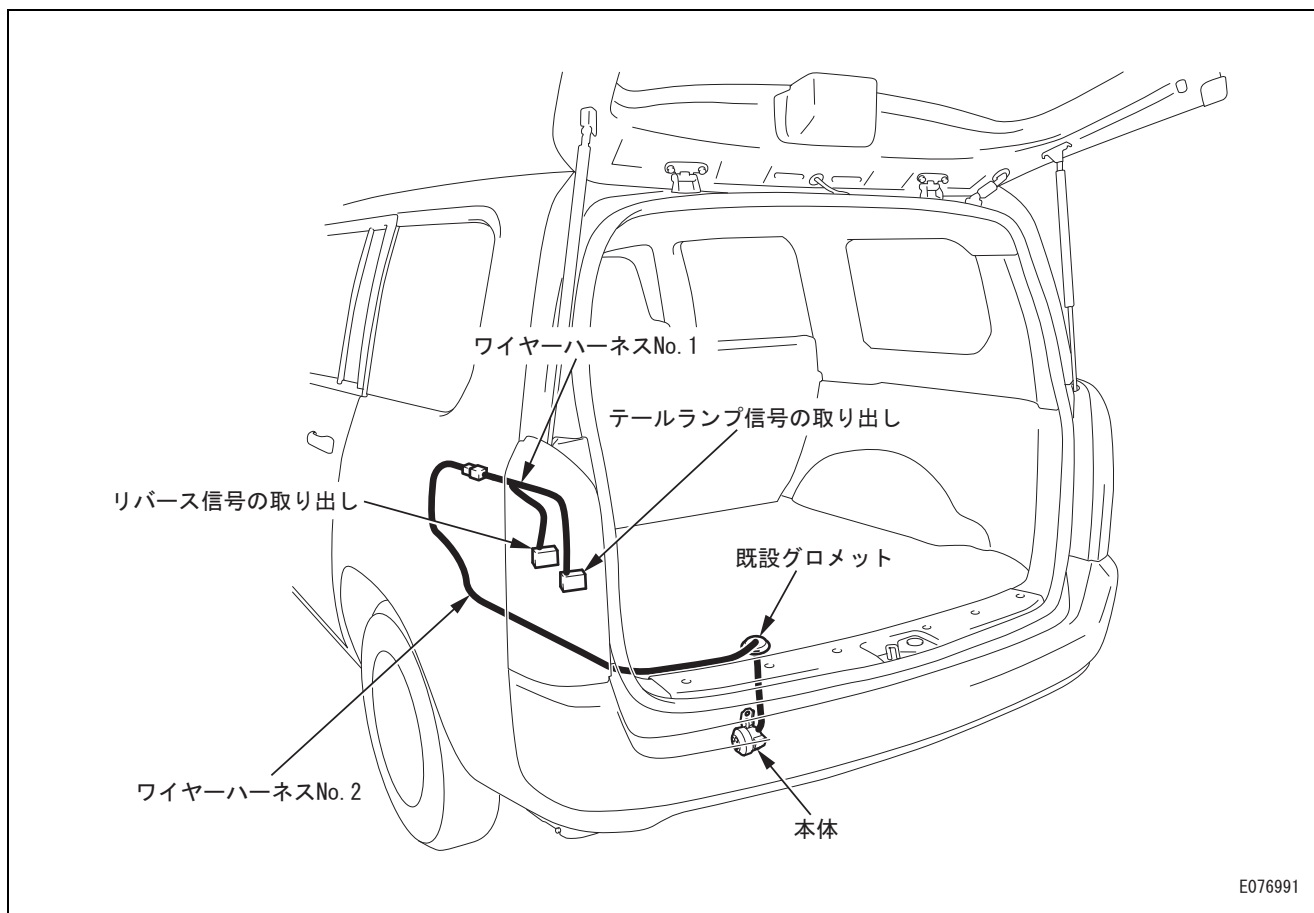
1. 本製品を取り付ける前に車両各部の点検を行い、正常に作動することを確認してください。
2. 本文中の取り付け上の△警告、△注意、👉 アドバイスは、必ず取り付けに反映させて作業を行ってください。
3. 車両部品の取りはずしに際して、タッピングスクリューやボルト、ナット類の紛失や混乱がないように部品ごとに整理して、復元する際に間違えないよう配慮してください。また、傷を付けたりしないように取り扱いに注意して作業を行ってください。
4. 本書で指示した以外の車両部品を取りはずさないでください。
5. バッテリー復元作業終了後に、車両機能部品の初期化が必要な部品がありますので、必ず初期化作業を行ってください。
6. 貼り付け面に油脂分や汚れが付いている場合、脱落や剥がれの原因になりますので、脱脂剤などで十分に拭き取り脱脂してください。
7. 脱脂剤などを使用する場合、火気に十分注意してください。

取り付ける前に ・バッテリーの（－）端子をはずす  ※車両によっては車両部品を取りはずす必要があります	工具での傷付き防止対策 ・（－）ドライバー、クリップリムーバーなどの先端にはビニールテープ類を巻いておく  （－）ドライバー ビニールテープ クリップリムーバー	部品の取り付けは ・寸法にあった工具を使う ・裏側に注意する ・ハーネスの噛み込みに注意する 
配線は ・コネクタは本体を持ってはずす  ・バリ・エッジ部は保護シートなどで保護する  保護シート	・ブラブラさせないビニールテープ類  ・防水処理を行う  ビニールテープ類	・コネクタ類は確実に接続 ・無理に引っ張らない  カチッ ガタ ガタ ・車両部品が確実に復元できるようワイヤーハーネスを処理する 
バンドまたはクランプは ・はだか線には固定しない ・余った部分を切り取る  	・切り取った末端が他のハーネスと接触しないように注意する  ガタ ガタ	取り付け完了後は ・車両部品は確実に復元  カチッ ガタ ガタ

E077027

E077027

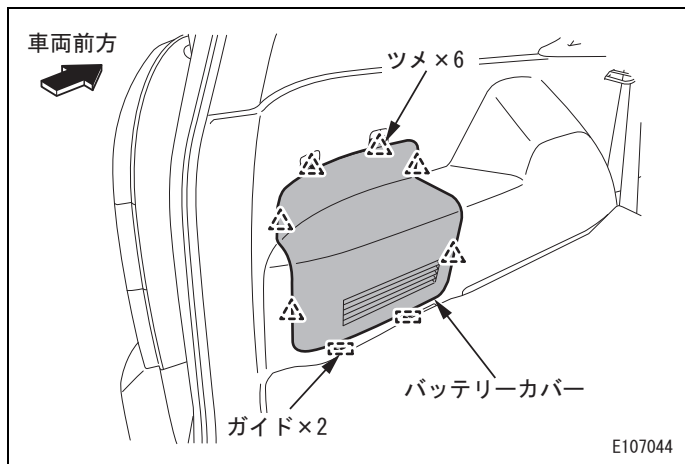
取り付け概要



取り付けに必要な工具

- | | | |
|---|-------------|---------------|
| (1) 一般工具 | (2) トルクレンチ | (3) クリップリムーバー |
| (4) 保護テープ | (5) ビニールテープ | (6) メジャー |
| (7) カッター | (8) はさみ | (9) ケブラ手袋 |
| (10) 脱脂剤等【イソプロピルアルコール (IPA) 純度 100% 推奨】 | | (11) ウェス |

取り付け要領

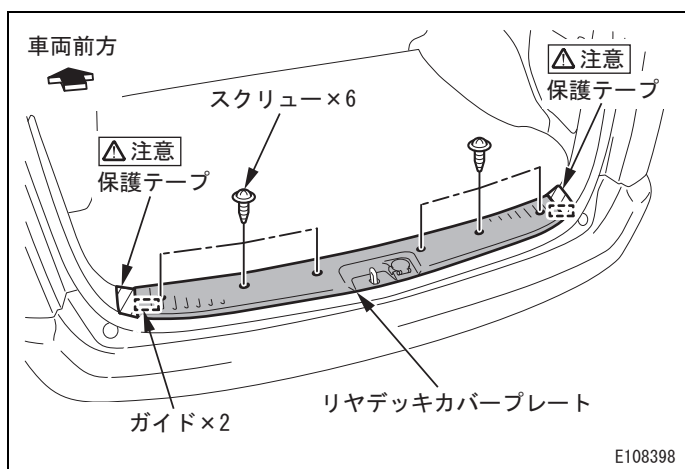


1. バッテリーの（－）端子取りはずし

- (1) バッテリーカバー（ツメ 6 箇所、ガイド 2 箇所）を取りはずす。
- (2) バッテリーの（－）端子をはずす。

△ 注意

バッテリーの（－）端子をはずさずに作業を行い、ショートした場合、傷害、火災および車両や製品の故障、破損の原因につながるおそれがあります。



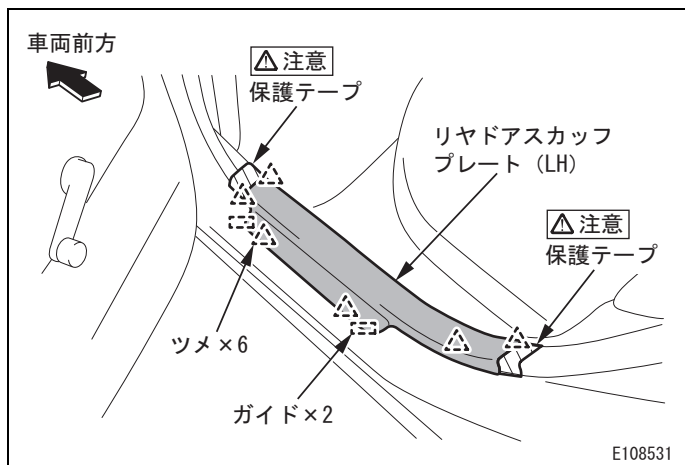
2. 車両部品の取りはずし

＜車室内＞

- (1) リヤデッキカバープレート（スクリュー 6 個、ガイド 2 箇所）を取りはずす。

△ 注意

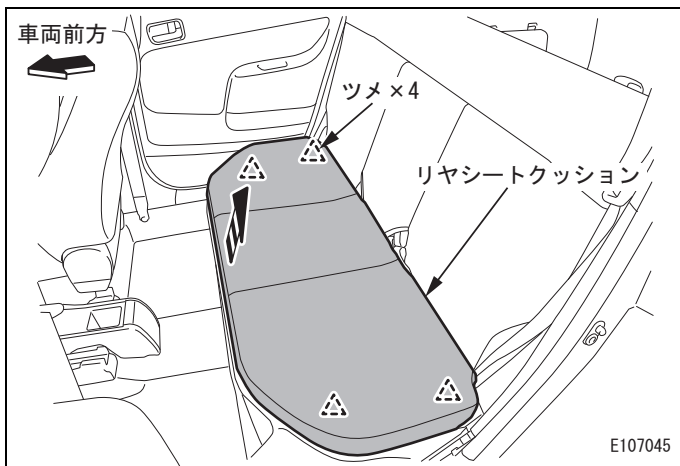
車両に傷が付かないように、左図の位置に保護テープを貼ってください。
(保護テープを貼らずに作業をした場合、車両に傷が付くおそれがあります。)



- (2) リヤダアスカッププレート (LH)（ツメ 6 箇所、ガイド 2 箇所）を取りはずす。

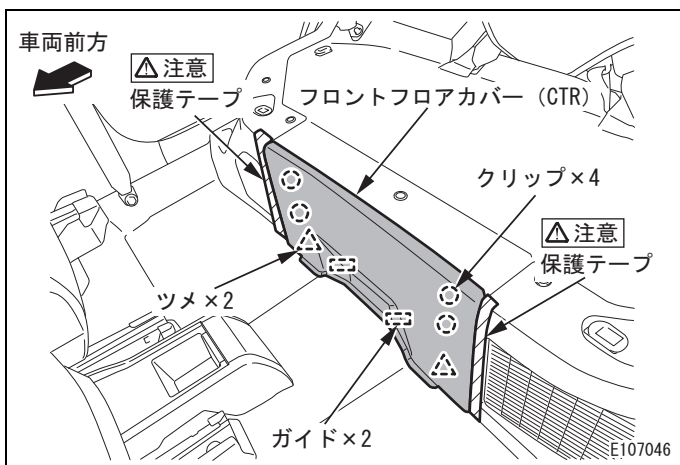
△ 注意

車両に傷が付かないように、左図の位置に保護テープを貼ってください。
(保護テープを貼らずに作業をした場合、車両に傷が付くおそれがあります。)



■除く、リヤシートクッション可動式の場合

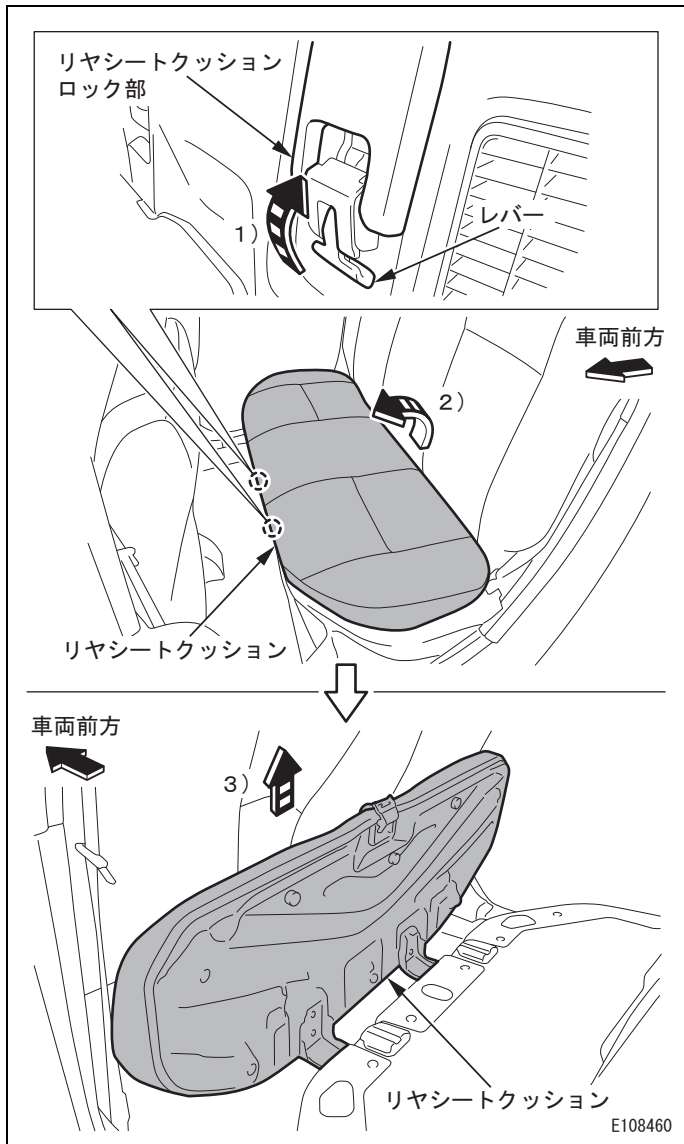
(3) リヤシートクッション (ツメ 4 箇所) を取りはずす。



(4) フロントフロアカバー (CTR) (ツメ 2 箇所、ガイド 2 箇所、クリップ 4 箇所) を取りはずす。

△注意

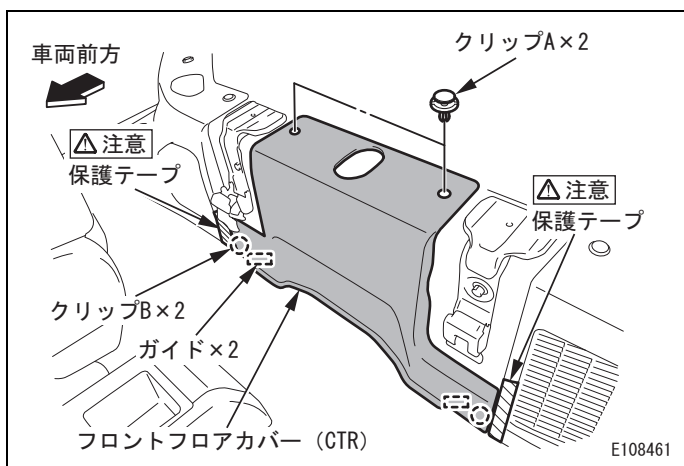
車両に傷が付かないように、左図の位置に保護テープを貼ってください。
(保護テープを貼らずに作業をした場合、車両に傷が付くおそれがあります。)



■リヤシートクッション可動式の場合

(5) リヤシートクッションを取りはずす。

- 1) レバーを引き上げ、ロックをはずす。
- 2) リヤシートクッションを車両前方へ起こす。
- 3) リヤシートクッションを持ち上げ、取りはずす。

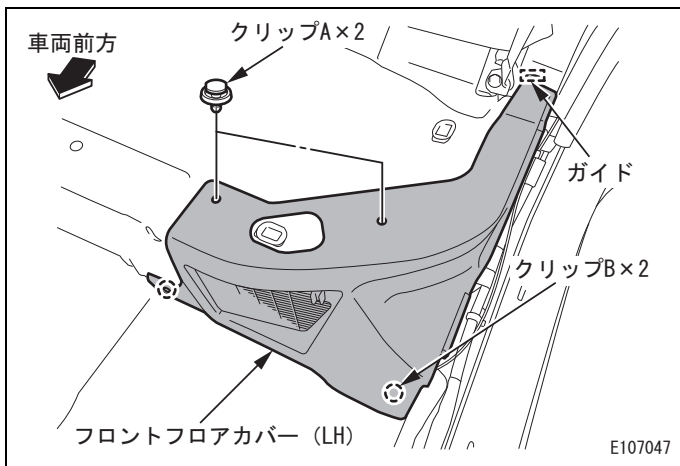


(6) フロントフロアカバー (CTR) (クリップ 4 箇所、ガイド 2 箇所) を取りはずす。

△注意

車両に傷が付かないように、左図の位置に保護テープを貼ってください。

(保護テープを貼らずに作業をした場合、車両に傷が付くおそれがあります。)



■共通

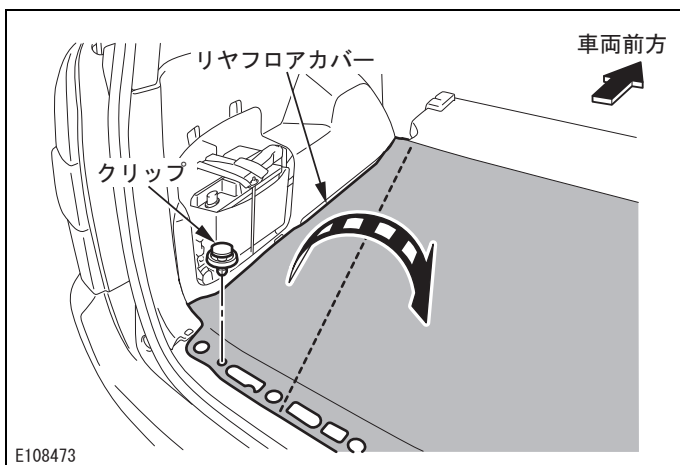
(7) フロントフロアカバー (LH) (クリップ4箇所、ガイド1箇所) を取りはずす。



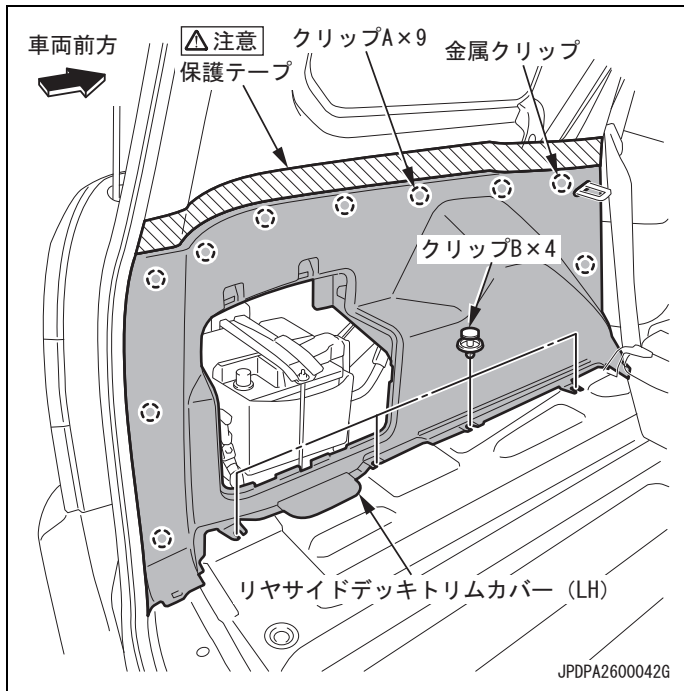
(8) リヤシートバックを前に倒す。

アドバイス

- ・つまみを引き上げて、ロックを解除してください。
- ・左図は、除く、シートクッション可動式を示しますが、シートクッション可動式も同様に作業を行ってください。



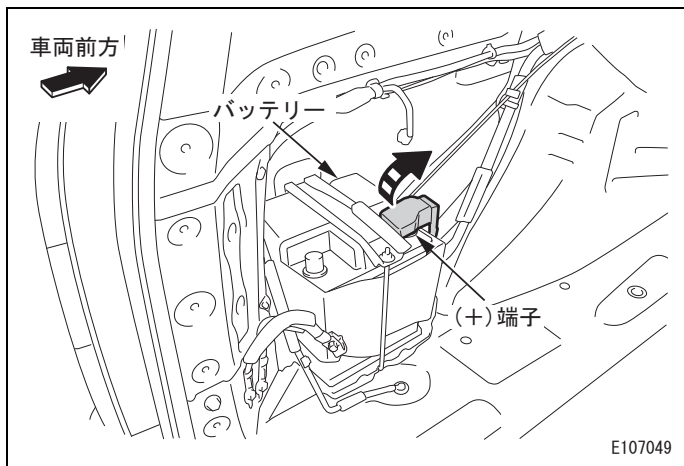
(9) リヤフロアカバー (クリップ1箇所) をめくる。



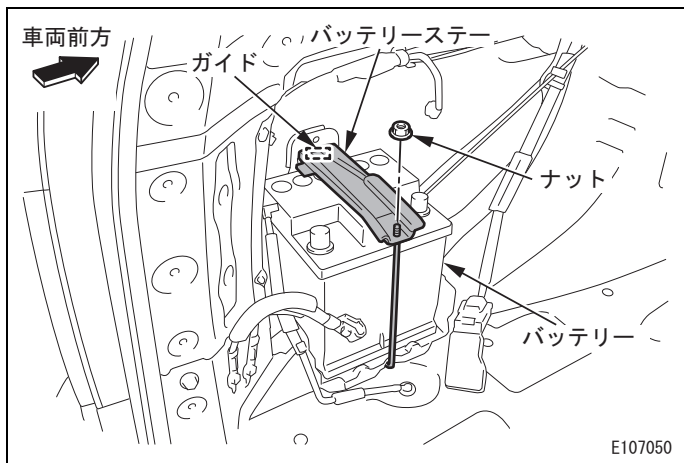
- (10) リヤサイドデッキトリムカバー (LH) (クリップ 14 箇所) を取りはずす。

△ 注意

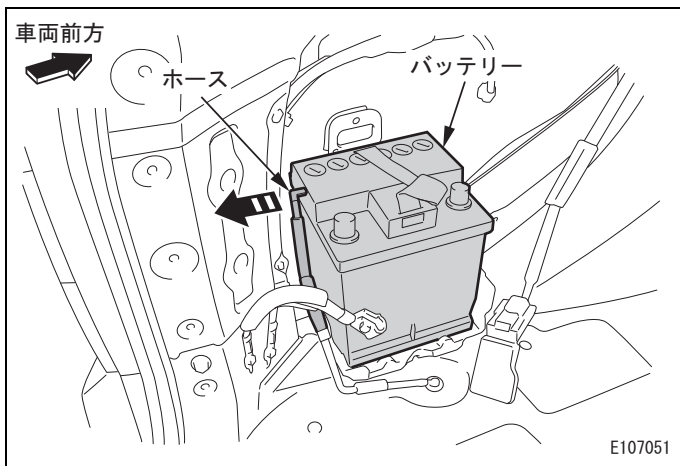
車両に傷が付かないように、左図の位置に保護テープを貼ってください。
(保護テープを貼らずに作業をした場合、車両に傷が付くおそれがあります。)



- (11) バッテリー (+) 端子のカバーをめくり、バッテリー (+) 端子を取りはずす。

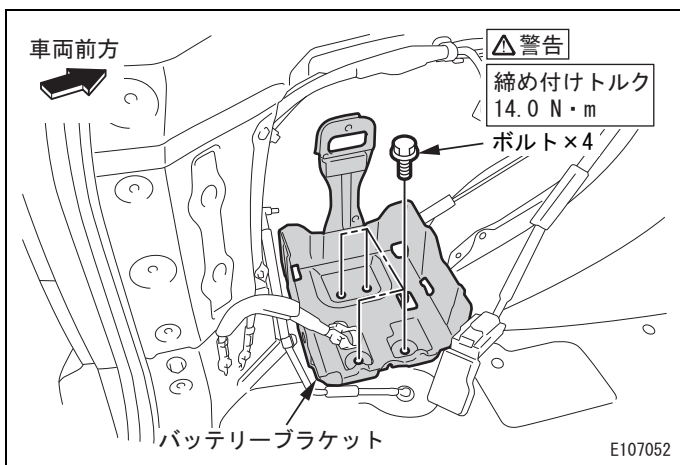


- (12) バッテリーステー (ナット 1 個、ガイド 1 箇所) を取りはずす。



(13) ガス抜きホースを取りはずす。

(14) バッテリーを取りはずす。

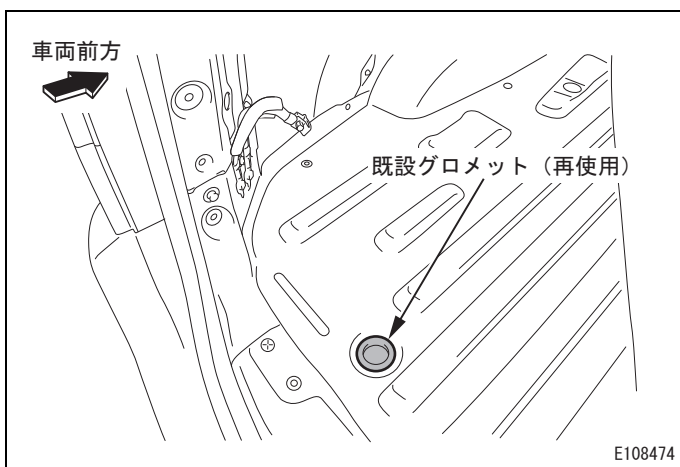


(15) バッテリーブラケット（ボルト4個）を取りはずす。

△警告

復元の際、締め付けトルクを厳守して作業を行ってください。

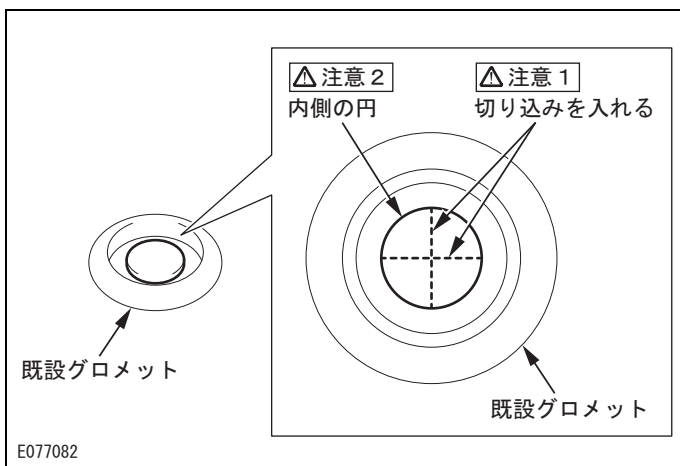
14.0 N・m



(16) 既設グロメット（再使用）を取りはずす。

👉 アドバイス

既設グロメットは後工程で使用するため、紛失しないでください。

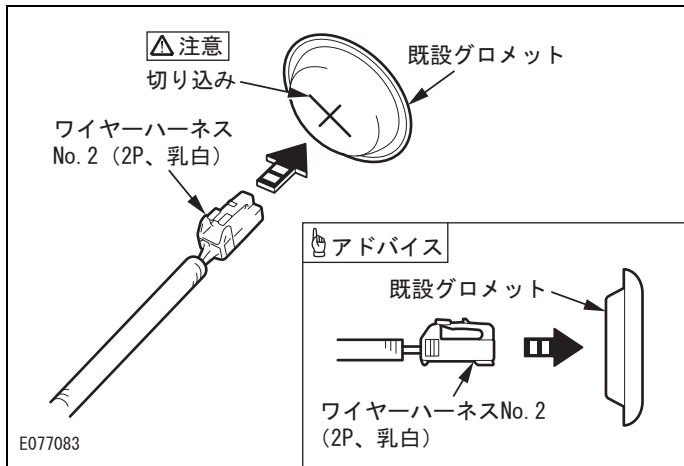


3. バックブザー本体の取り付け

(1) 既設グロメットに切り込みを入れる。

△注意

1. 切り込み作業をする際、ケブラ手袋を着用して作業してください。
(ケブラ手袋を着用しないで作業をした場合、手にけがをするおそれがあります。)
2. 既設グロメットの内側の円を超えないように切り込みを入れてください。
(内側の円を超えた場合、製品の故障、破損につながるおそれがあります。)



- (2) 既設グロメットにワイヤーハーネス No. 2 (2P、乳白) を通す。

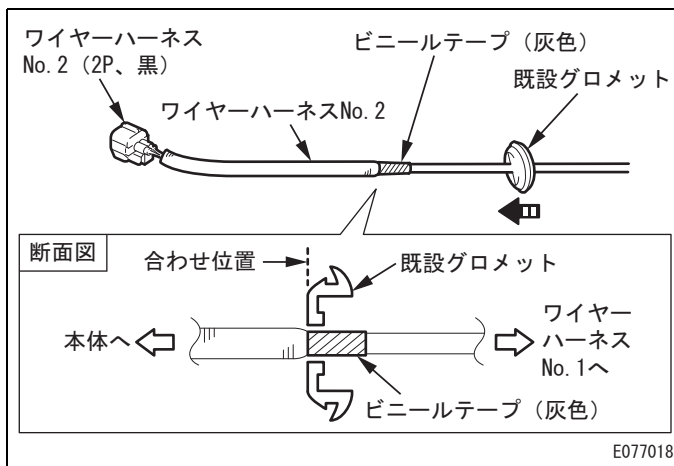
△注意

既設グロメットにワイヤーハーネス No. 2 (2P、乳白) を通す際、切り込みを広げないようにしてください。

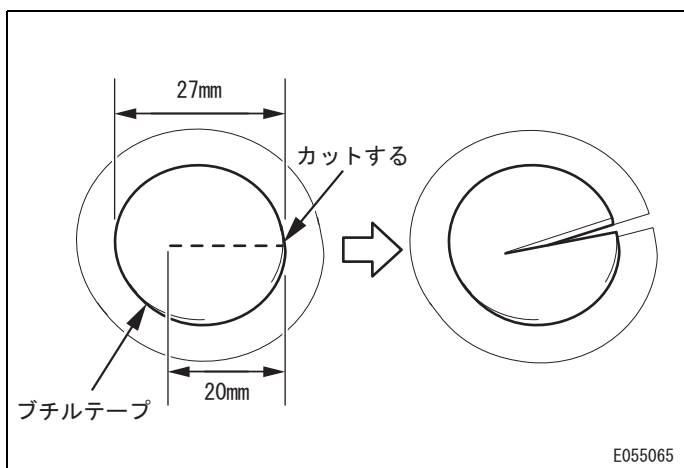
(切り込みが広がった場合、後工程でブチルテープを正しく貼り付けることができません。)

アドバイス

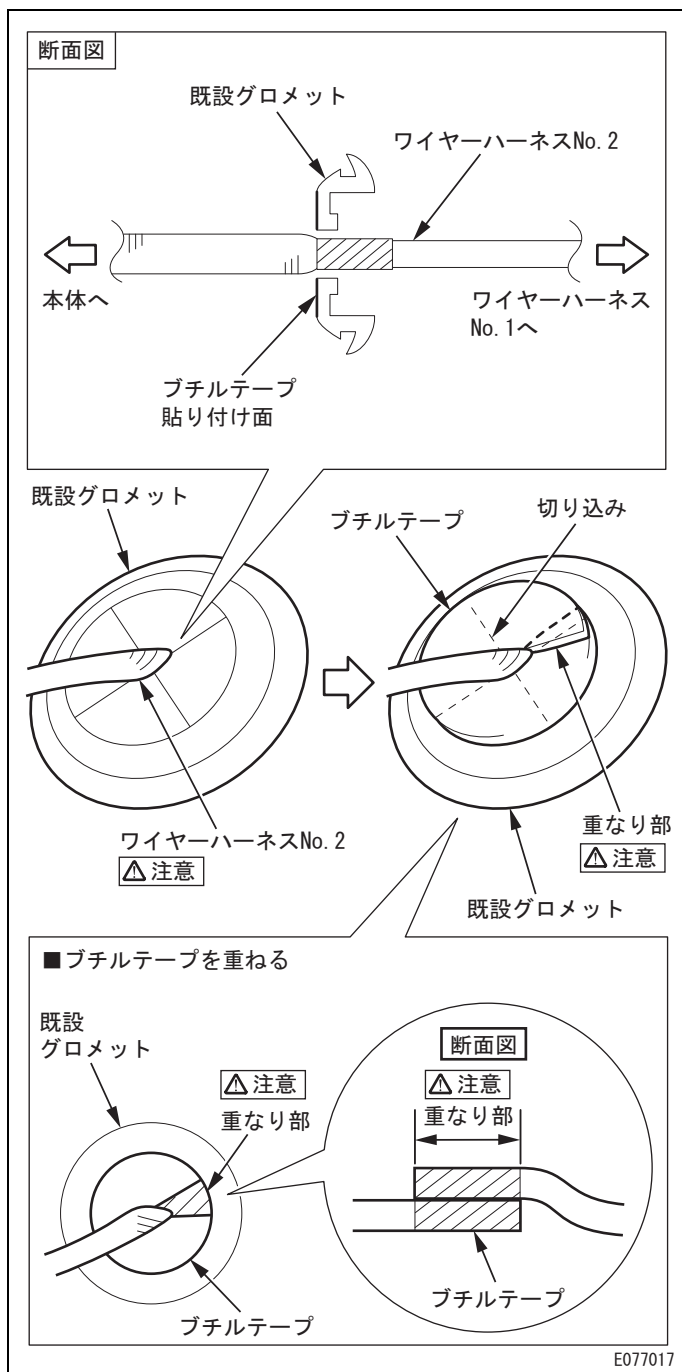
ワイヤーハーネス No. 2 (2P、乳白) を通す際、既設グロメットの向きを間違えないようにしてください。



- (3) 既設グロメットをワイヤーハーネス No. 2 のビニールテープ (灰色) に合わせる。



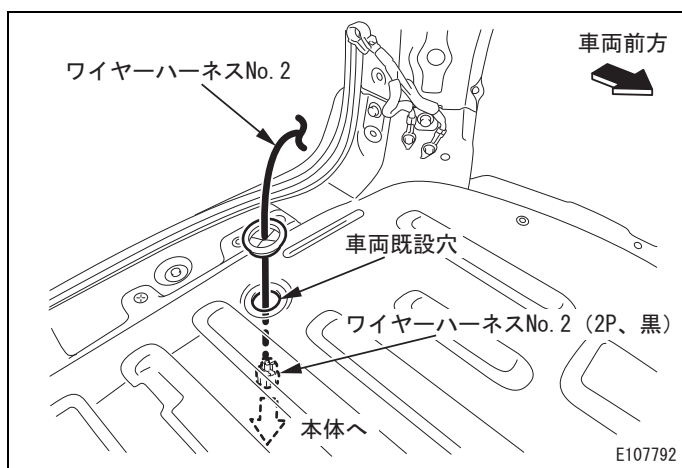
- (4) ブチルテープを左図の寸法に従ってカットする。



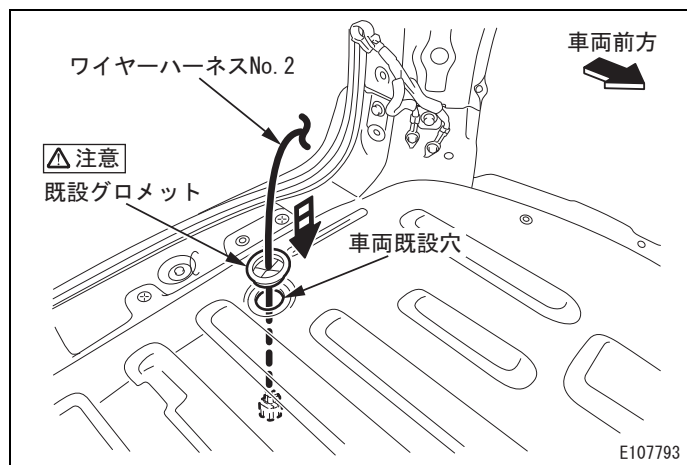
- (5) 既設グロメットのブチルテープ貼り付け位置のゴミ、ホコリ、油汚れなどを脱脂剤などで十分に脱脂する。
- (6) ワイヤーハーネス No. 2 カバーを平たくしながら、既設グロメットにカットしたブチルテープを貼り付ける。

△注意

- ・ブチルテープを貼り付ける際、ワイヤーハーネス No. 2 カバーの周りにすき間ができないようにブチルテープを貼り付けてください。
(ワイヤーハーネス No. 2 カバーの周りにすき間ができた場合、車室内に水が浸入するおそれがあります。)
- ・既設グロメットの切り込みを塞ぐように、重ねてブチルテープを貼り付けてください。
(切り込みを塞がなかった場合、車室内に水が浸入するおそれがあります。)



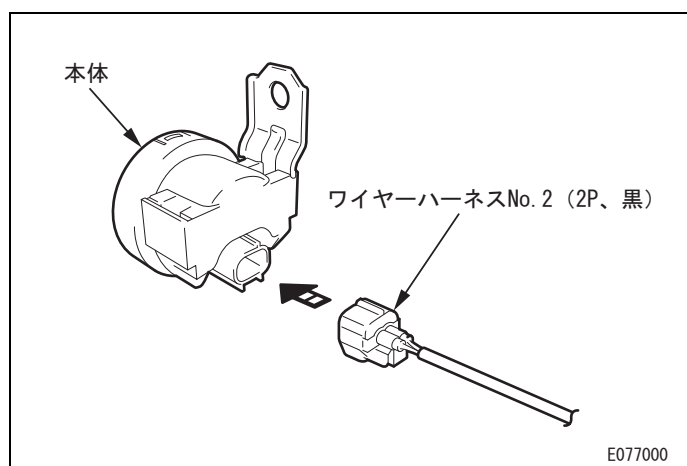
- (7) ワイヤーハーネス No. 2 を左図のように車両既設穴から車外へ取り廻す。



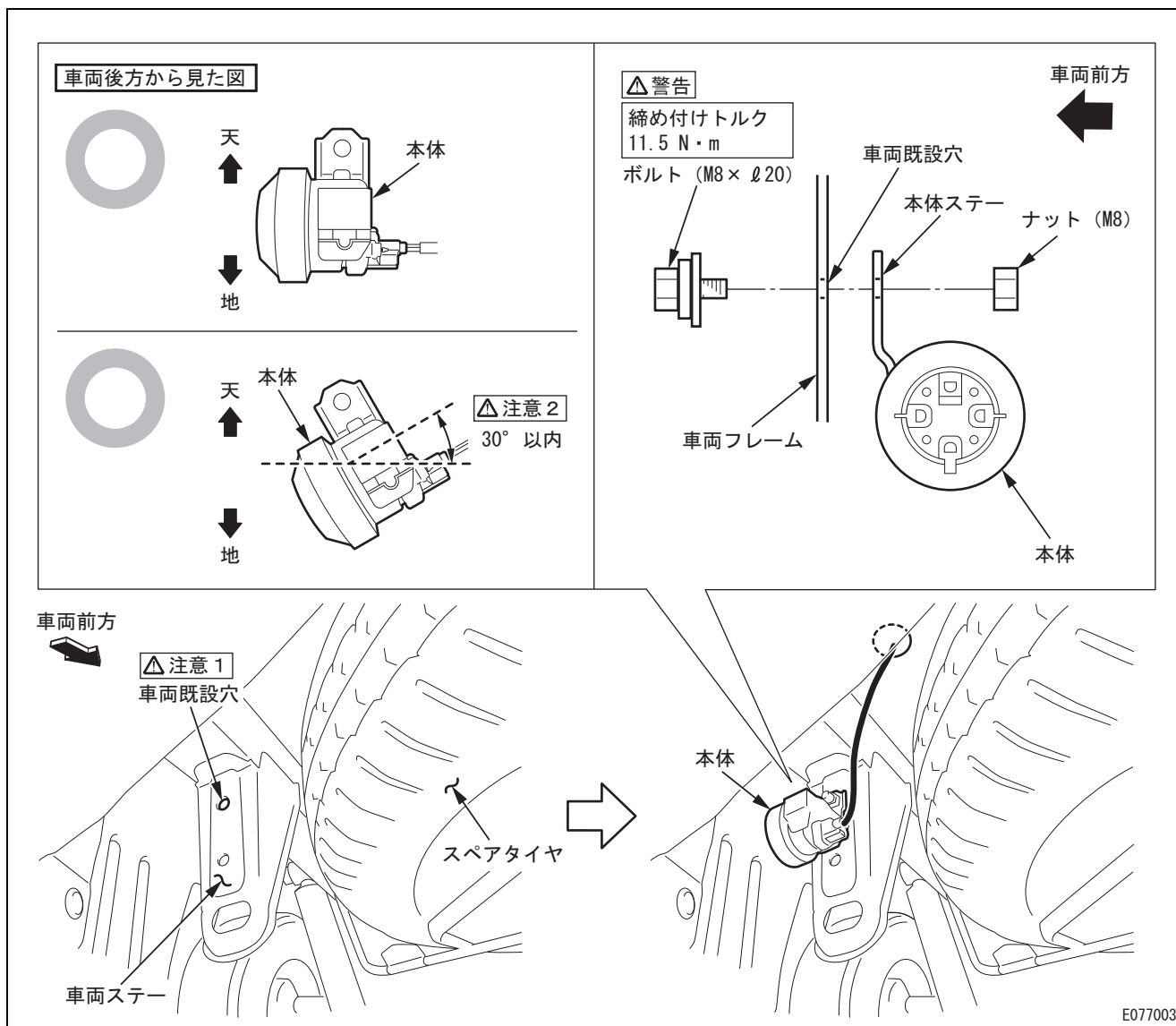
(8) 車両既設穴に既設グロメットを取り付ける。

△注意

- ・既設グロメットを取り付ける際、ブチルテープがはがれないようにしてください。
- ・既設グロメットが確実にはめ込まれていることを確認してください。
(既設グロメットが確実にはめ込まれていない場合、車両への水浸入の原因になります。)



(9) 本体にワイヤーハーネス No. 2 (2P、黒) を接続する。



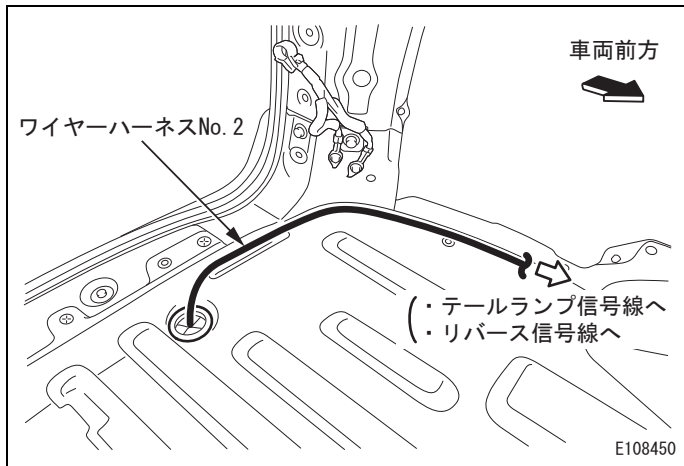
(10) 上図のように本体をボルト (M8× ℓ 20) およびナット (M8) で車両ステーに取り付ける。

△注意

締め付けトルクを厳守して作業してください。
11.5 N・m

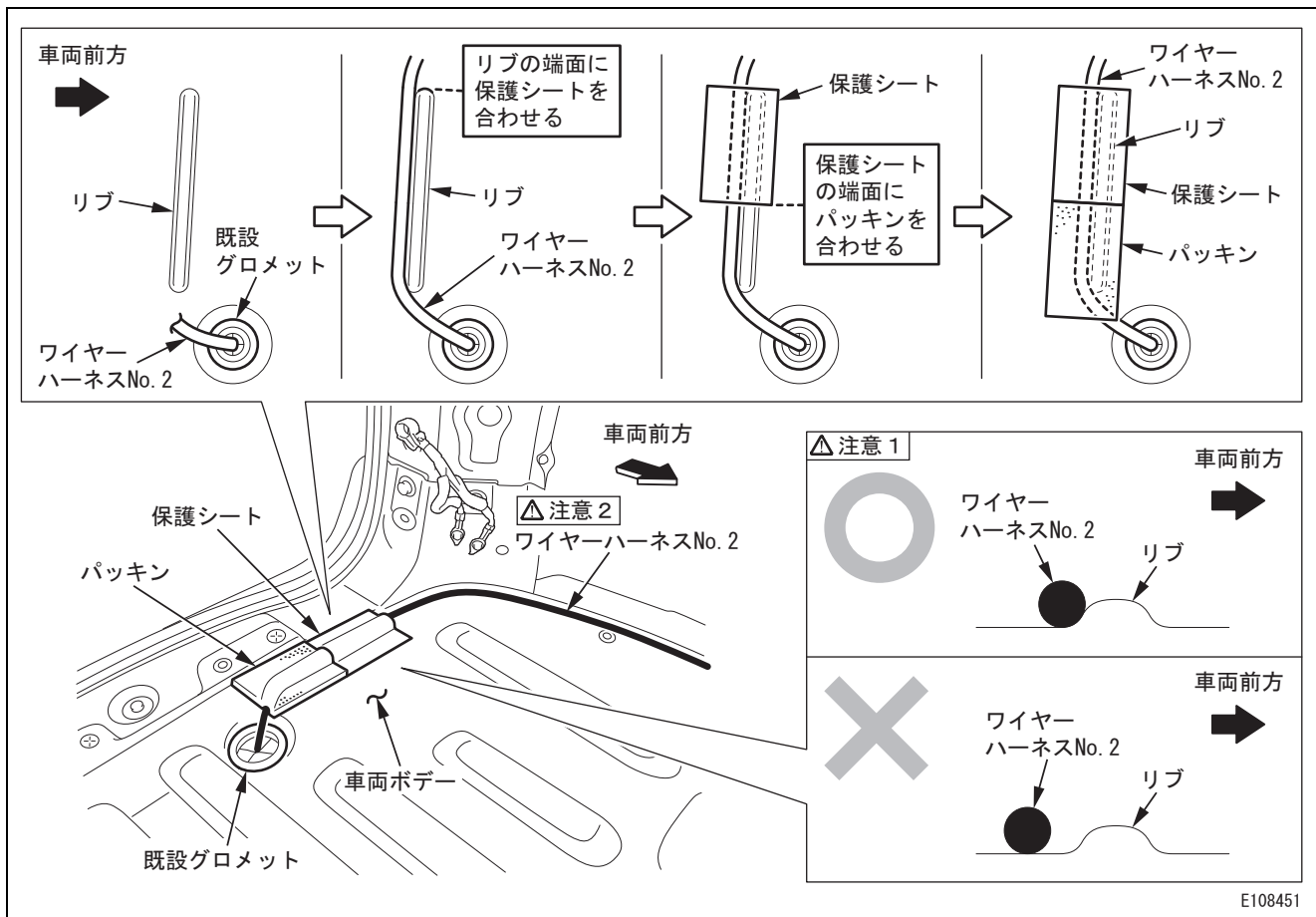
△注意

1. 本体を車両フレームに取り付ける際、車両既設穴を間違えないようにしてください。
(車両既設穴を間違えた場合、製品を正しく取り付けることができません。)
2. 本体の取り付け角度は地面に対して必ず水平 (水平方向より 30° 以内) に取り付けてください。
(上記作業を守らなかった場合、製品の故障、破損につながるおそれがあります。)



4. 配線作業

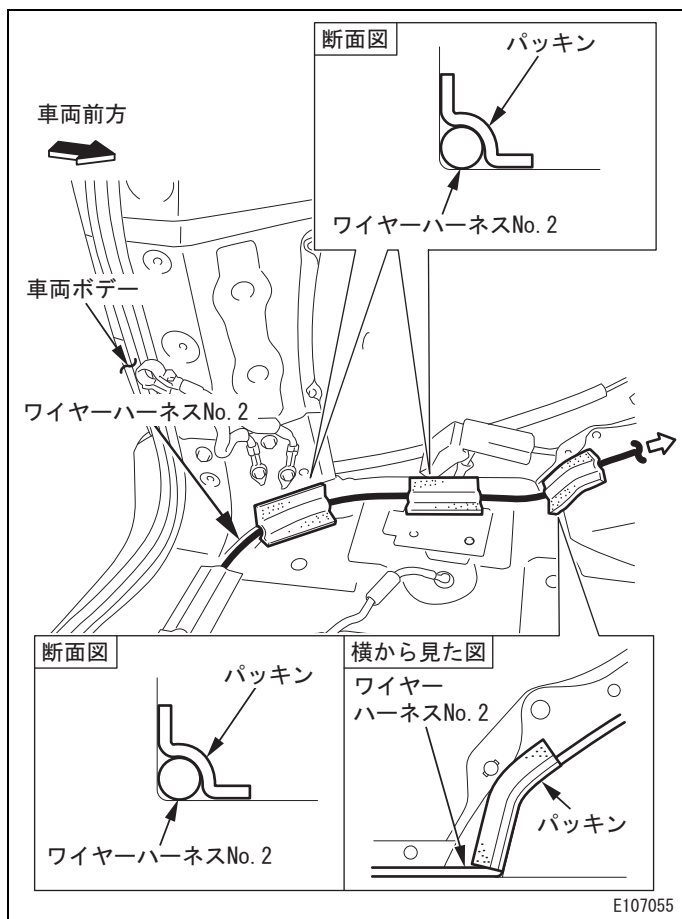
- (1) ワイヤーハーネス No. 2 を左図のように取り廻す。



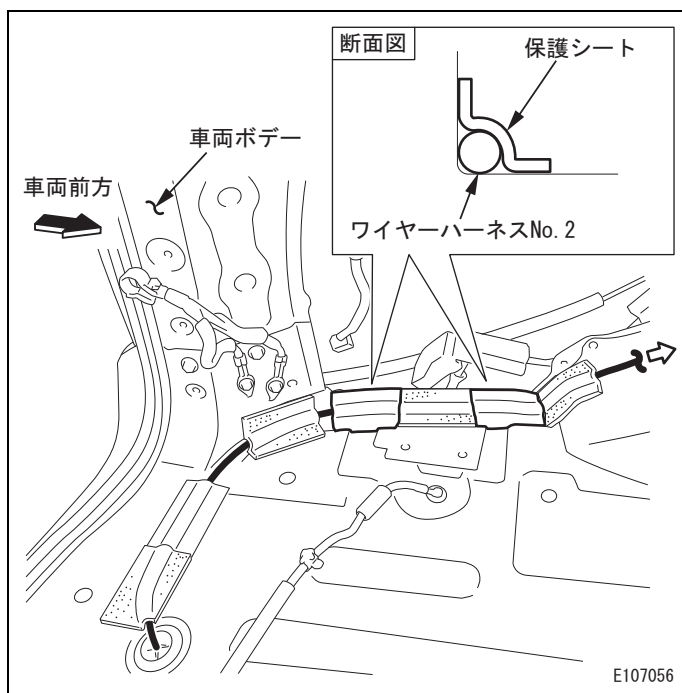
- (2) 上図の保護シートおよびパッキン貼り付け位置のゴミ、ホコリ、油汚れなどを脱脂剤などで十分に脱脂する。
 (3) 保護シート 1 枚をワイヤーハーネス No. 2 および車両ボデーに貼り付ける。
 (4) ワイヤーハーネス No. 2 をパッキン 1 枚で固定する。

△注意

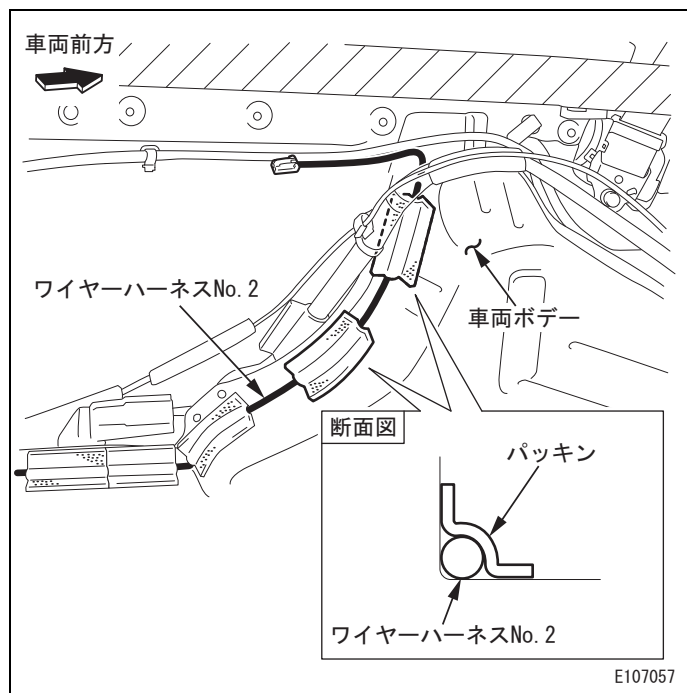
- ワイヤーハーネス No. 2 を固定する際、車両ボデーのリブに沿って固定してください。
 (リブに沿っていない場合、車両部品を復元する際、ワイヤーハーネス No. 2 が噛み込み断線するおそれがあります。)
- パッキンおよび保護シートで固定する際、ワイヤーハーネス No. 2 を引っ張り過ぎないように作業してください。
 (ワイヤーハーネス No. 2 を引っ張り過ぎた場合、既設グロメットがはずれるおそれがあります。)



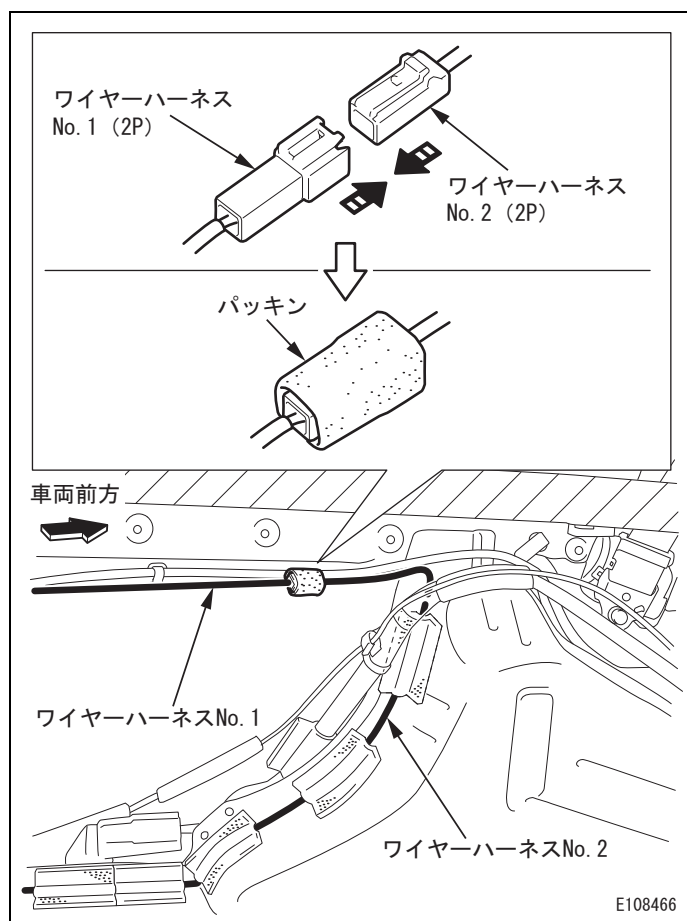
- (5) 左図のパッキン貼り付け位置のゴミ、ホコリ、油汚れなどを脱脂剤などで十分に脱脂する。
- (6) ワイヤーハーネス No. 2 を左図のように取り廻し、パッキン 3 枚で固定する。



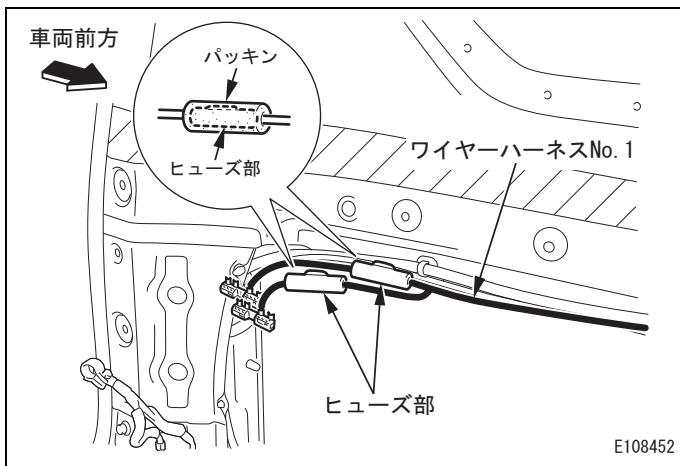
- (7) 左図の保護シート貼り付け位置のゴミ、ホコリ、油汚れなどを脱脂剤などで十分に脱脂する。
- (8) 保護シート 2 枚を車両ボデーに貼り付ける。



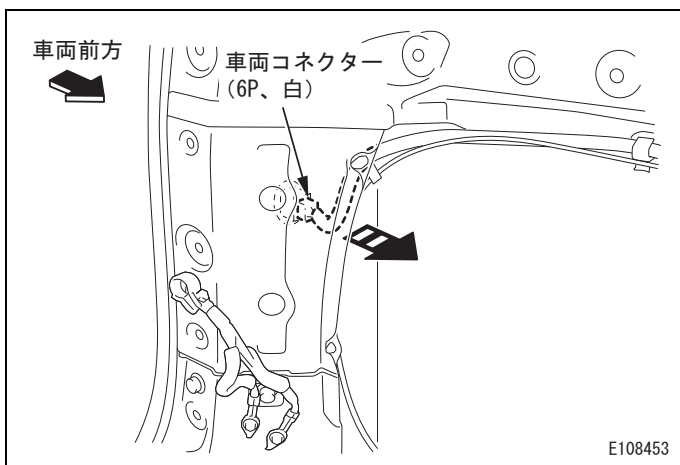
- (9) 左図のパッキン貼り付け位置のゴミ、ホコリ、油汚れなどを脱脂剤などで十分に脱脂する。
- (10) ワイヤーハーネス No. 2 を左図のように取り廻し、パッキン 2 枚で固定する。



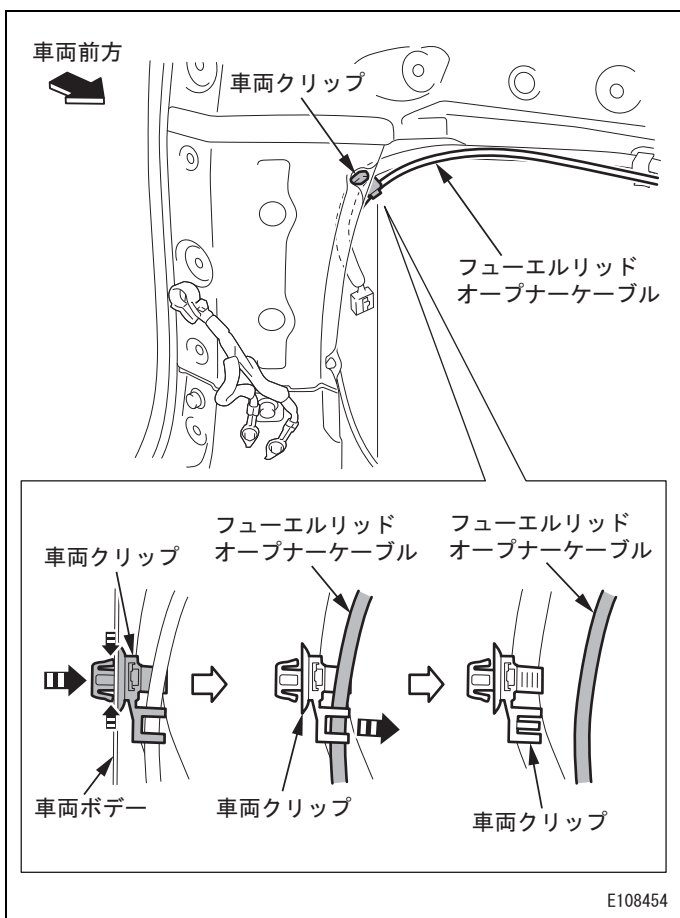
- (11) ワイヤーハーネス No. 1 (2P) とワイヤーハーネス No. 2 (2P) を接続する。
- (12) ワイヤーハーネス No. 1 (2P) とワイヤーハーネス No. 2 (2P) の接続部にパッキン 1 枚を巻く。



- (13) ワイヤーハーネス No. 1 を左図のように取り廻す。
- (14) ワイヤーハーネス No. 1 のヒューズ部にパッキン各 1 枚を巻く。(2箇所)



- (15) 車両コネクター (6P、白) を取りはずす。



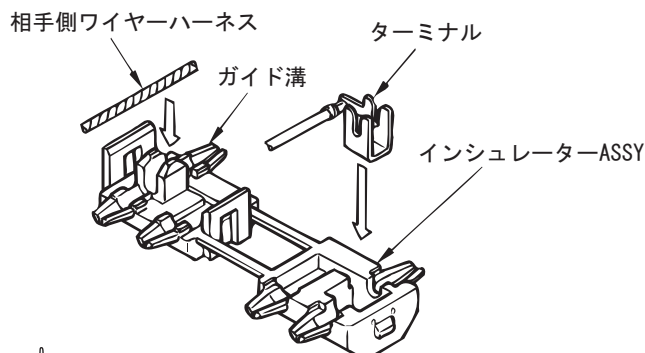
- (16) 車両クリップを車両ボデーから取りはずす。
- (17) フューエルリッドオープナーケーブルを車両クリップから取りはずす。

■分岐コネクタの接続方法

1) 相手側ワイヤーハーネスをインシュレーターASSYにセットする。

👉 アドバイス

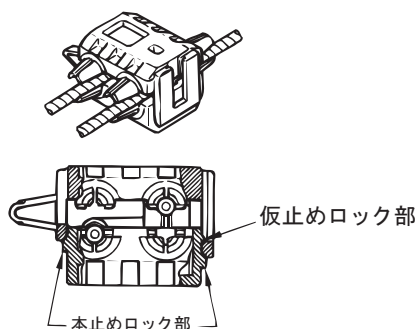
圧接する車両ハーネスは、確実にガイド溝へ入れてください。



👉 アドバイス

ターミナルは、インシュレーターに組み付けられているが、万一はずれていた場合には、ターミナルに圧入用の穴があいているので完全に圧入されるまでターミナルを矢印の方向に押し込んでください。

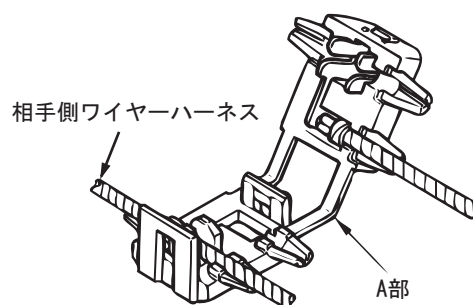
3) 仮止めの状態にする。



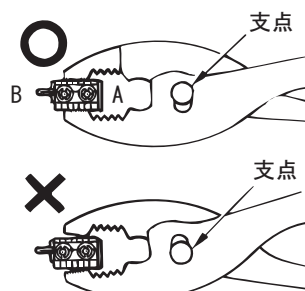
👉 アドバイス

仮止めのロックは、片側にしか設けられていないので、本止めのロックが上下合う位置で止めておいてください。

2) コネクタのA部を支点にして折り返す。



4) 仮止めされているコネクタをプライヤーの先端面全体でA-B均等に力が加わるようにコネクタの中央部をはさみ込み、左右の固定部が掛かるまで圧着する。

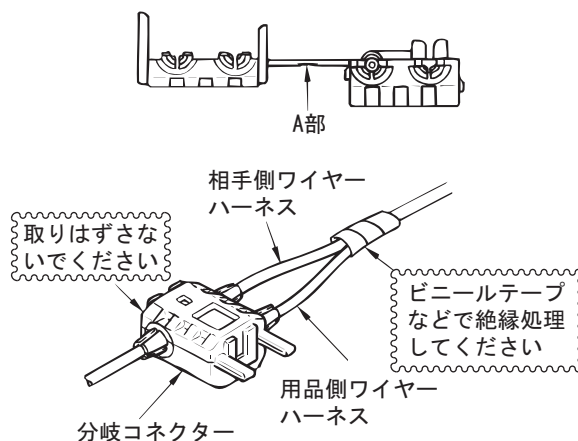


👉 アドバイス

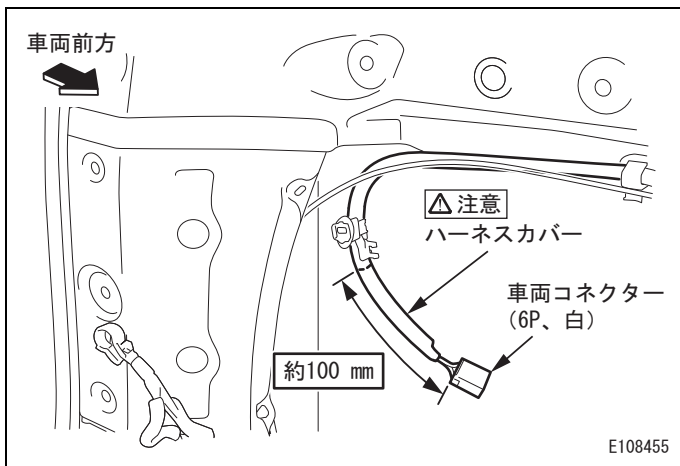
はさみ込むときは、左右のロックのクリック音を確認してください。

分岐コネクタ接続上の注意

1. A部が折れた場合でも性能には影響がないのでそのまま使用してください。
2. 一度使用したものは再使用しないこと。また、取りはずす際には、コネクタを相手側ワイヤーハーネスに圧接したまま用品側ワイヤーハーネスを30mm程度残して切り離し、ビニールテープなどで絶縁処理してください。



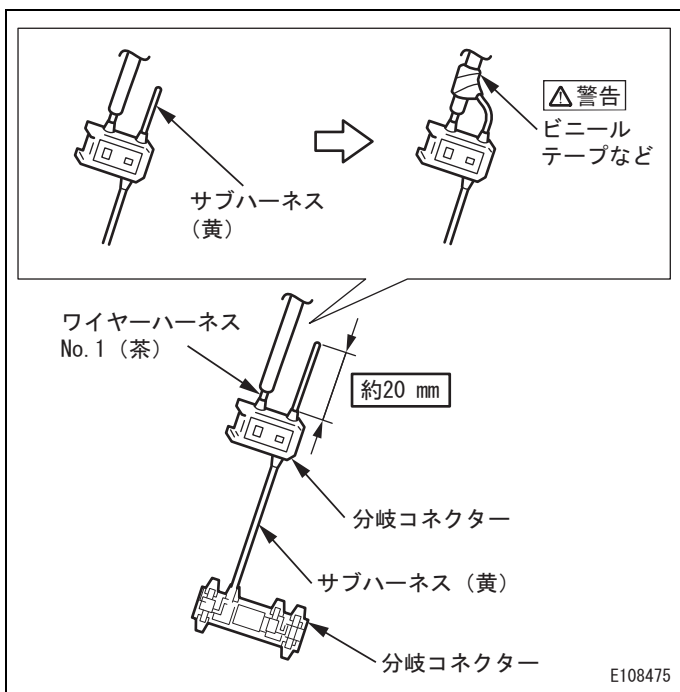
EA0112



(18) 車両コネクタ (6P、白) から約 100 mm の位置までハーネスカバーを切り取る。

△注意

ハーネスカバーを切り取る際、車両ハーネスを傷付けないようにしてください。
(車両ハーネスを傷付けた場合、車両ハーネスが断線するおそれがあります。)

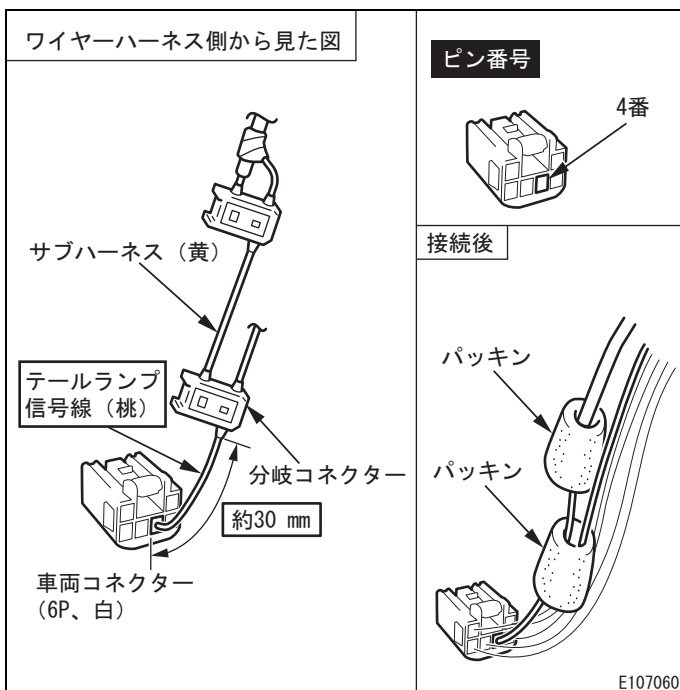


(19) ワイヤーハーネス No. 1 にサブハーネスを約 20 mm あまらせた状態で接続する。
(分岐コネクタの接続方法 P18 参照)

(20) あまったサブハーネスを絶縁処理する。

△注意

絶縁処理をせずに作業を行い、ショートした場合、傷害、火災および車両や製品の故障、破損の原因につながるおそれがあります。



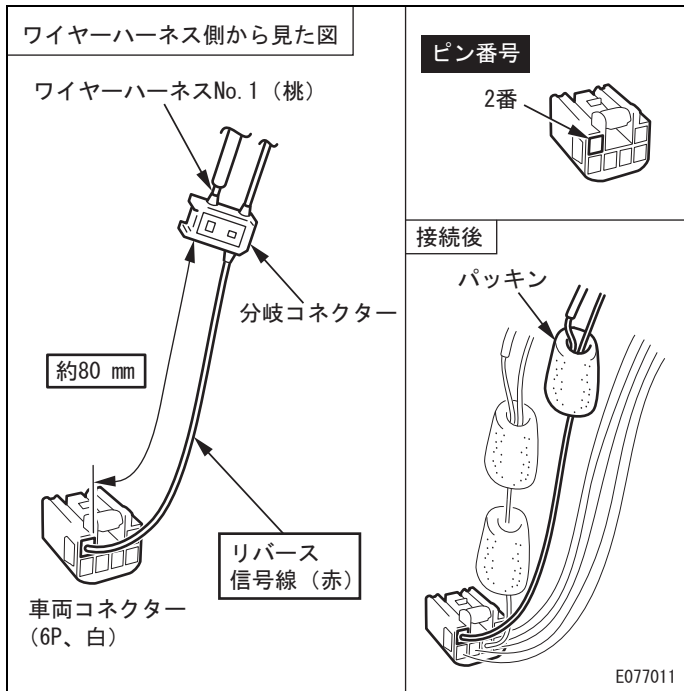
(21) 車両コネクタ (6P、白) から約 30 mm 離して、分岐コネクタ (線色：黄) を車両ハーネスのテールランプ信号線 (4 番、線色：桃) に接続する。
(分岐コネクタの接続方法 P18 参照)

△注意

線色、位置を確かめたのち接続してください。
特に類似ワイヤーへの接続まちがいのないようにしてください。

(線色、位置を誤って接続した場合、車両や製品の故障、破損につながるおそれがあります。)

(22) パッキン 2 枚を分岐コネクタ接続部に巻く。

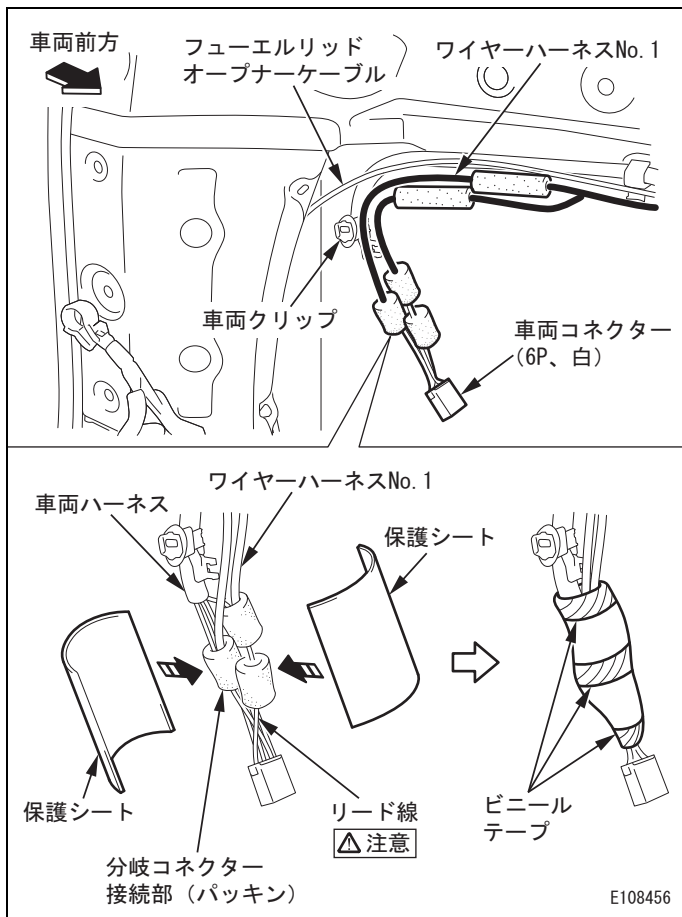


- (23) 車両コネクタ (6P、白) から約 80 mm 離して、分岐コネクタ (線色：桃) を車両ハーネスのリバース信号線 (2 番、線色：赤) に接続する。
(分岐コネクタの接続方法 P18 参照)

△ 注意

線色、位置を確かめたのち接続してください。
特に類似ワイヤーへの接続まちがいのないようにしてください。
(線色、位置を誤って接続した場合、車両や製品の故障、破損につながるおそれがあります。)

- (24) パッキン 1 枚を分岐コネクタ接続部に巻く。

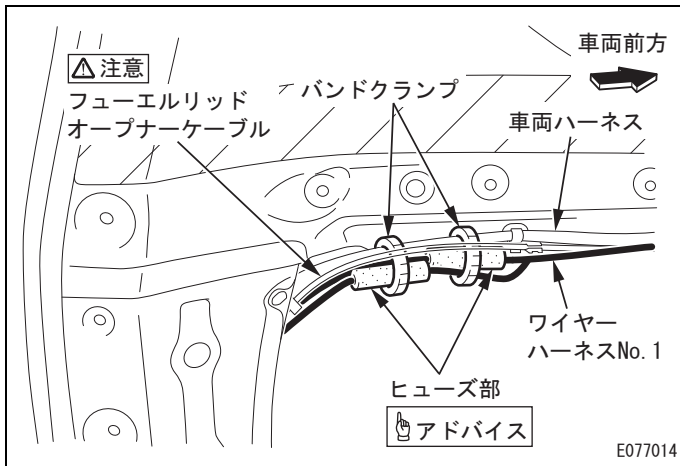


- (25) パッキンを巻いた分岐コネクタ接続部および車両ハーネスを保護シート 2 枚で包み込む。

△ 注意

リード線が保護シートで覆われていることを確認してください。
(リード線が保護シートで覆われていない場合、リード線が車両エッジ部に干渉し、断線するおそれがあります。)

- (26) ビニールテープを保護シートを巻いた分岐コネクタ接続部に巻く。(3 箇所)
- (27) 車両コネクタ (6P、白) を元の位置に復元する。
- (28) フューエルリッドオープナーケーブルを元の位置に復元する。
- (29) 車両クリップを元の位置に復元する。



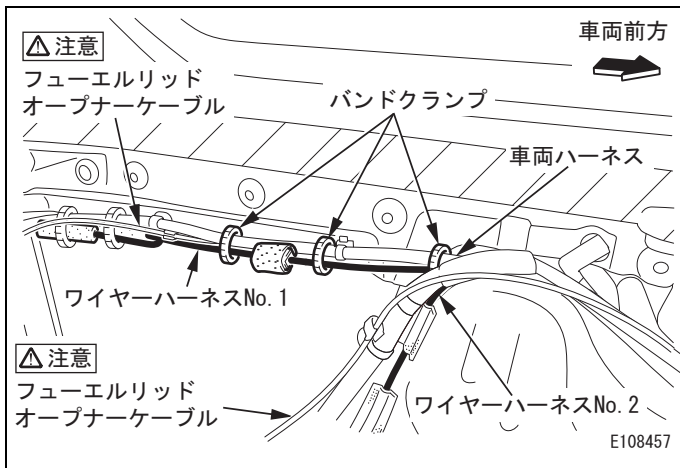
- (30) ワイヤーハーネス No. 1 のヒューズ部を車両ハーネスにバンドクランプ 2 本で固定する。

△ 注意

バンドクランプで固定する際、フューエルリッド オープナーケーブルに固定しないでください。
(フューエルリッド オープナーケーブルに固定した場合、車両の故障、破損につながるおそれがあります。)

👉 アドバイス

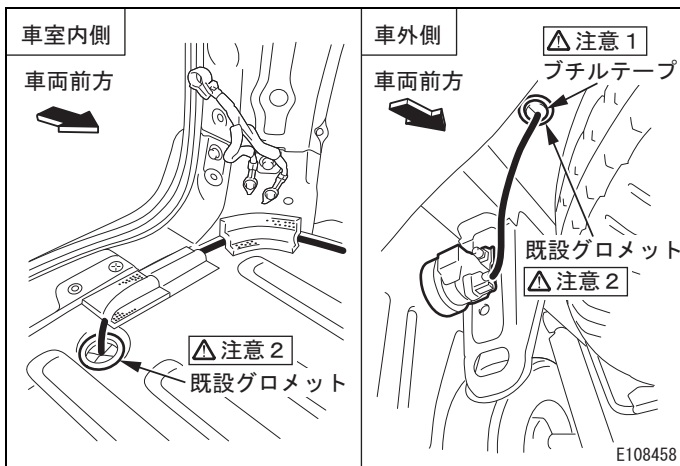
ワイヤーハーネス No. 1 のヒューズ部を車両ハーネスに固定してください。



- (31) ワイヤーハーネス No. 1 およびワイヤーハーネス No. 2 を車両ハーネスにバンドクランプ 3 本で固定する。

△ 注意

バンドクランプで固定する際、フューエルリッド オープナーケーブルに固定しないでください。
(フューエルリッド オープナーケーブルに固定した場合、車両の故障、破損につながるおそれがあります。)



5. 既設グロメットの取り付け確認

△ 注意

1. 既設グロメットに貼り付けたブチルテープが確実に貼り付けられていることを確認してください。
(ブチルテープが確実に貼り付けられていない場合、車両への水浸入の原因になります。)
2. 既設グロメットが確実ににはめ込まれていることを確認してください。
(既設グロメットが確実ににはめ込まれていない場合、車両への水浸入の原因になります。)

最終確認

1. 取り付けの確認

- (1) 配線や取り付けに異常がないか点検する。
- (2) 特に車両ハーネスおよび本体ハーネスを無理に押したり、引っ張ったり、噛み込んだりしていないか点検する。また部品の締め付け忘れはないかも一度確認する。

2. 作動確認

△注意

輪止めにより、車両が動かないようにしてください。

バッテリーの（－）端子に車両ハーネスを接続し、バックブザーが下記の「作動確認要領」通りに作動するか確認する。

■作動確認要領

	(操作手順)	(確認項目)
(1)	IG ON（エンジンは始動させない。）	バックブザーの消音確認。
	↓	
(2)	IG ONのまま、シフトレバーを「R(リバース)」へシフトする。	バックブザーの吹鳴確認。
	↓	
(3)	シフトレバーを「R(リバース)」のまま、テールランプを点灯させる。	バックブザーの消音確認。
	↓	
(4)	テールランプを点灯のまま、シフトレバーを「R(リバース)」以外へシフトする。	バックブザーの消音確認。

E055334

■リヤコンビネーションランプの作動確認

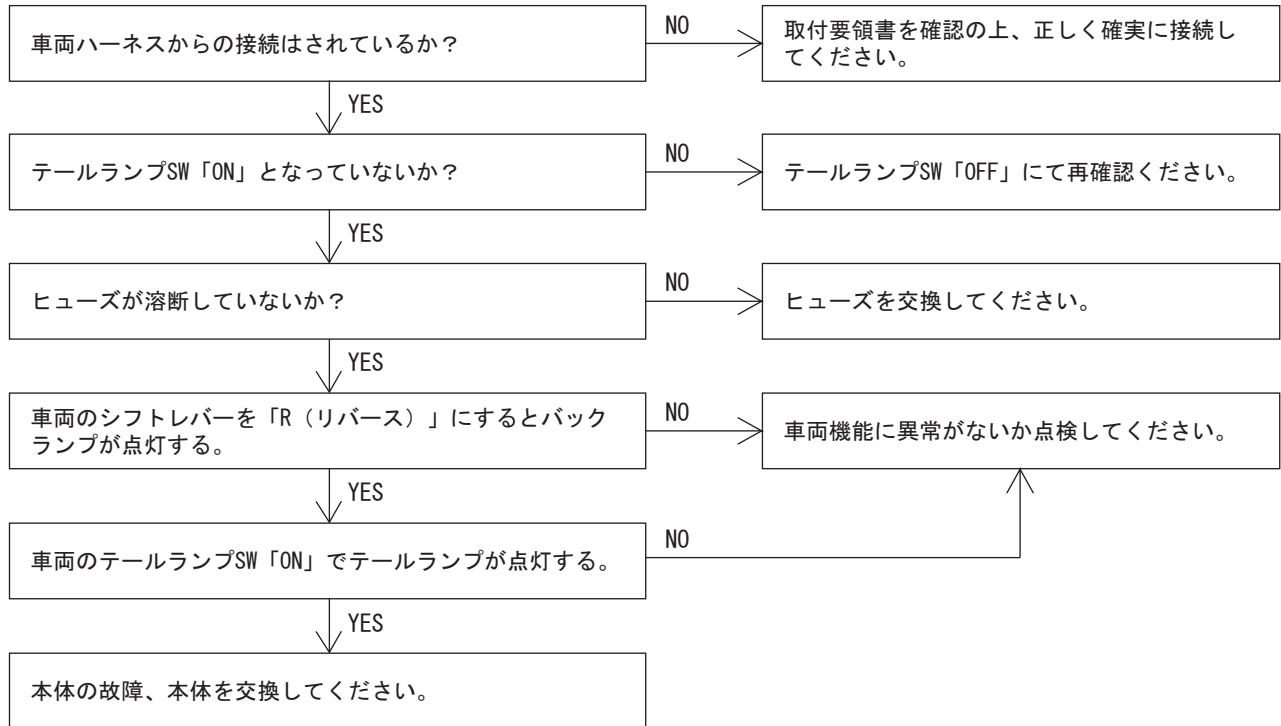
- ・テールランプの点灯
- ・ブレーキランプの点灯
- ・ハザードランプの点灯
- ・方向指示ランプの点灯
- ・リバースランプの点灯

トラブルシュート

1 シフトレバー「R（リバース）」にて作動しない。

△ 注意

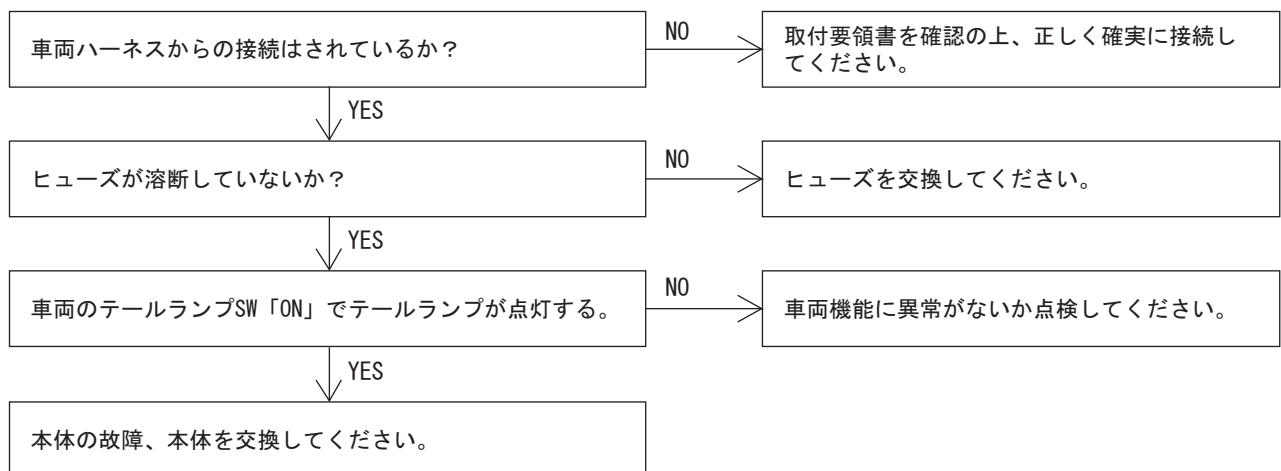
- ・ 輪止めにより、車両が動かないようにしてください。
- ・ 絶対にReady ON状態で作業しないでください。
(HVシステム停止中の作動は、バッテリー上がりになるおそれがありますので注意してください。)



2 テールランプSW「ON」時、消音ができない。

△ 注意

- ・ 輪止めにより、車両が動かないようにしてください。
- ・ 絶対にReady ON状態で作業しないでください。
(HVシステム停止中の作動は、バッテリー上がりになるおそれがありますので注意してください。)



JPDP A2600048G

復元作業

「作動確認」完了後、取りはずした部品を元通りに復元する。

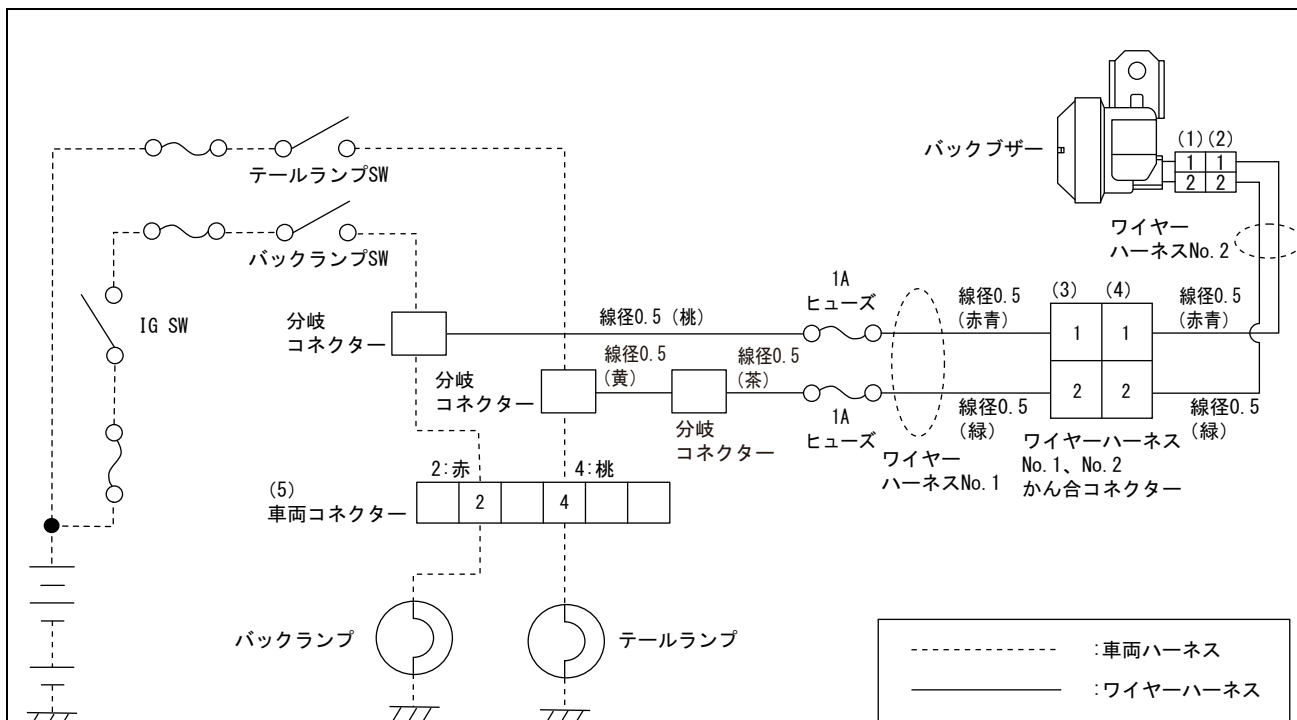
■バッテリー復元時の注意事項

△注意

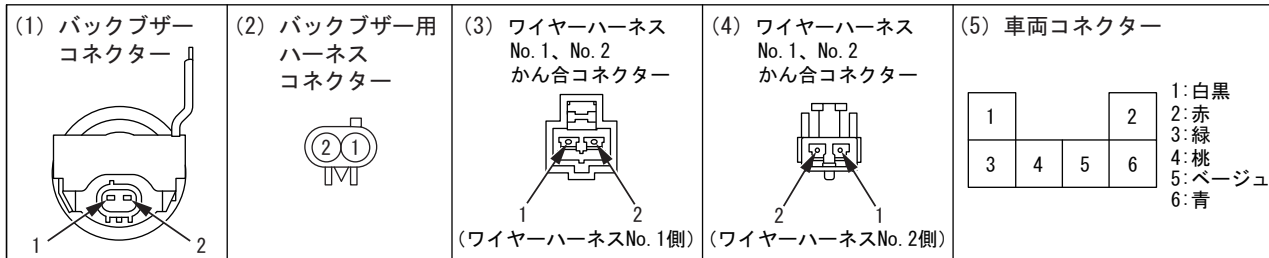
バッテリー復元作業終了後に、車両システムによっては初期化が必要な場合があります。車両修理書を参考に初期化作業を行ってください。

(車両システムの初期化には、GTS+ 等のツールが必要な場合があります。)

配線図



■かん合面側から見た図



E108467

仕様

仕 様	
公 称 電 圧	12V
電 流	50mA 以下
作 動 電 圧 範 囲	10 ～ 14.5V
使 用 温 度 範 囲	－ 30 ～＋ 80 ℃
保 存 温 度 範 囲	－ 40 ～＋ 85 ℃

取り付け店殿へのお願い

- ・バックブザーを取り付けても、自動車を後退させようとするときは必ず車の後方の安全を確認するようお客様にご説明ください。
- ・このバックブザーは“夜間消音機構付き（テールランプが点灯すると不鳴となる。）”であることをお客様にご説明ください。

・車両、製品の仕様などの変更により本書の内容と一致しない場合がありますのでご了承ください。

発行年月 2018年12月
改訂年月 2026年 7月